

平成 30 年度卒業者に対する
在学期間中の学生生活についての調査
結果報告書

杉野服飾大学

F D 研究委員会

I. 調査について

調査日	平成31年1月28日～3月20日
調査対象	平成31年3月卒業者 164名
回答者数	133名（回答率81.1%）
調査方法	各コース主任の説明後、アンケートソフトクエスタントを使用し、 学生個人のスマートフォンから回答。無記名式で選択肢選択及び自由記述。
調査結果	5段階評価（1が最低、5が最高）

II. 回答者の属性

		人数（人）	%
性別	女性	108	18.8
	男性	25	81.2

	種別	人数（人）	%
入試形態	AO入試	62	46.6
	推薦入試	29	21.8
	公募制入試	10	7.5
	一般入試	10	7.5
	センター	6	4.5
	編入学	16	12.0

コース	人数（人）	%
モード(北折)	25	18.8
モード(安部)	27	20.3
インダストリアル	26	19.5
テキスタイル	18	13.5
プロダクトデザイン	15	11.3
ビジネスマネジメント	16	12.0
流通イノベーション	6	4.5

Ⅲ. 学生による5段階評定の数値報告

* 質問1は性別、質問2は入学時の入試種別、質問3はコース名(結果は前ページに記載)

質問4. 本学の授業には満足できましたか。

(質問4-①) 専門科目における知識・感性・技術の修得

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	4.07	4.06	3.95

(質問4-②) 専門科目の教員の授業・指導

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	4.02	3.93	3.84

(質問4-③) 教養科目における知識・教養の会得

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.56	3.77	3.83

(質問4-④) 教養科目の教員の授業・指導

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.61	3.63	3.86

(質問4-⑤) 教室の環境・設備

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.12	3.06	3.16

質問5 以下の項目についてどのように感じていますか。

(質問5-①) コンピューターを用いた授業は役に立ちましたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.78	3.60	3.89	3.98	4.02	4.11

(質問5-②) 教務課員の対応は丁寧でしたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.60	3.17	3.61	3.33	3.58	3.77

(質問5-③) 学生課員の対応は丁寧でしたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.85	3.77	3.96	3.85	3.87	3.96

(質問5-④) 就職課員の対応は丁寧でしたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.73	3.72	3.56	3.33	3.64	3.72

(質問5-⑤) 図書館員の対応は丁寧でしたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.04	3.16	3.29	3.72	3.93	3.77

(質問5-⑥) 購買部の品数は十分でしたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.45	3.19	3.22	3.55	3.47	3.52

(質問5-⑦) 自習室は役に立ちましたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.59	3.31	3.80	3.79	3.71	3.91

(質問5-⑧) 談話室は快適でしたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.16	2.84	3.43	3.21	3.18	3.48

(質問5-⑨) 学食・コンビニの品数は十分でしたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	2.81	2.63	3.15	2.96	3.22	3.18

(質問5-⑩) 大学祭やクラブ、サークル活動に積極的に参加しましたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	2.91	2.79	3.17	2.85	3.07	3.01

(質問5-⑪) 友人関係や先輩・後輩との関係は良好でしたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.86	3.68	3.97	3.79	3.68	3.97

(質問5-⑫) 就職活動に関して本学の指導は行き届いていましたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	3.19	2.92	3.23	3.02	3.10	3.29

質問6 あなたが学生生活で力を入れたものはどれですか。(複数回答可)

*28年度183名、29年度129名、30年度133名

	平成28年度 (%)	平成29年度 (%)	平成30年度 (%)
学業	60.1%	70.5%	75.9%
アルバイト	40.4%	50.4%	58.6%
資格取得	9.3%	20.2%	14.3%
クラブ・サークル活動	6.0%	14.7%	16.5%
コンテスト参加	3.8%	16.3%	6.8%

質問7 在学中に取得した資格は何ですか。（複数回答可）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ファッション色彩能力検定	27	26	12	16	8	24
ファッションビジネス能力検定	13	8	5	6	2	7
ファッション販売能力検定	43	29	7	6	5	17
パターンメイキング技術検定	15	12	4	12	12	9
フォーマルスペシャリスト認定プロ ンズライセンス	10	23	12	5	10	8
CG検定	1	1	0	0	0	3
ブライダルファッションプランナー	3	3	7	3	2	7
その他	8	4	9	32	13	21
延べ合計数	120	106	56	80	52	96

質問8 総合的に見て、本学での学生生活には満足できましたか。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平均評点	4.14	3.92	4.20	3.99	4.05	3.47

2018 年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：モードクリエーションコース

担当者：安部智子

担当クラスの回答から、ほとんどの学生が「入学時の目標に対して達成する事ができた」と回答していたのは非常にうれしい事である。「できなかった」という答も、「より興味のある学びを見つけることができた」という前向きな「できなかった」であったので、ほっとしている。しかしながら、「提出期限がゆるすぎる。ちゃんとやっている人が損をする」という意見もあった。確かに、提出期限に対する考えが甘い学生も存在し、その対応に苦慮することも多かった。しかし、遅れた学生に対応する事が、そうでない学生にとって不公平感をもたらすのであるなら、今後改善していく必要があると感じている。

モードクリエーションコース 3・4 年次の教員選択に対して、選択肢を広げて欲しかったという意見に対しては、1 年次でのコース選択の段階で、もう少し説明が必要なかもしれないと感じた。また、教室環境に関する意見は、少しずつでも改善されるようにしたい。

学生の資質や情熱に差のあるクラスで、なかなか難しい事も多かったが、杉野で学んだ4年間で総合的にある程度の評価につながった事は、何よりである。

2018年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：モードクリエーションコース（北折）

担当者：北折 貴子

・就職に関して、夢はデザイナーや企画であっても、初めは販売を3年くらいやっただけからという現実がある。それに対して夢をかなえられなかったと感じているが、就職部でも教室でも初めから技術職で取る会社は少なくなっていること。技術職の場合、任される仕事の責任を取れる状況になってから仕事の幅が広がることを伝えたつもりであったが、まだ不足していると感じた。色々な場面で学生の意見を聞きながら夢を現実にする道について話す機会を増やしたいと感じた。

・授業についての意見でもっと自由に作りたかったという意見も数点あったが、途中の制作物は教室発表なのである程度自由にしているが、卒業制作は研究内容とモードクリエーションのショーとしてのレベルを考えて多少の規制をかけている。自分だけ満足してもあまりに低いレベルで作品を修了作品とするわけにはいかず、そこを理解させる難しさを日々感じている。以前あった学内コンクールでの企業デザイナーによる評価のときにもそのブランドが自分にとって好きか嫌いかで、汎用的な意見でも聞く耳を持ってくれないこともあり、数値で表しにくい評価の難しさを感じる。今後違うアプローチで評価について考えていきたい。手始めとして銀座マギーとのコラボレーションで企業デザイナーによる評価を考えている。

・自習室のミシン・アイロンについては月曜日から金曜日までほぼ毎日モードの実習室を9時から19時まで開けている。しかし、授業のない午前中はほぼ誰も来ない。授業終了とともに早々帰ってしまうことも多い。また、オープンキャンパスのある土日は教室に表記して来るように促すが、来ても1～3名でいつも同じ学生である。今後は自習室の利用に関して、時期（提出日前）や曜日、時間を調査して本当にどこで必要なのか？検討したい。

・成績表のネット配信や、アルバイトをしている学生が多いのでシフト提出を考えると1ヶ月前に伝えるように検討したい。（ちなみにモードの授業は初日にほとんどの予定を紙に書いて教室に掲示している。未定のものであっても入る予定がある場合は予定と書いて提示している）今後もできるだけ決まった時点で学生に伝えていきたい。

2018年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：インダストリアルパターン

担当者：住野雅子

インダストリアルパターンコース第1期生から一般科目（選択）人体工学論を履修することが出来るようになり、1年生から4年生へと学習能力を長いスパンで指導できるようになったのが今回の新しいカリキュラムの成果である。2年、3年で縫製技術やCADを学び4年では研究課題のみとなるので、学生は充実した生活を送れるようになっている。すべてテキストを教員が作り、学生は、自主的に学習が出来るようにしている。コースの教材は全て統一し、コース内の授業内容も一貫しているため、能力に関しては学年が上がることに伸びていくことが出来、評価も高い結果となった。

① アンケート結果 コース別について

どの項目も平均より高く教育内容は充実している。

② 学生生活で力をいれたものについて

資格取得者の数は少ないが、取得している資格は多い。

③ 質問7 在学中に取得した資格はなんですか

平成25年2014年からパターンメイキング2級を受験させている。毎年全員受験させていたが、平成27年から授業の中で指導をすることが出来ない状態となった為、合格者も激減している。（2013年までは、3年で3級を取得させていた為、2014年が転換期となった。）

改善案

① 2019年では、大学の全体で使用している自習室を授業中にも使用し、そのまま各自の自習時間につなげている。

CAD&3D演習Ⅰ、Ⅱ大学3年。その為自習時間に自習室に行くようになった。

② 2019年からドレスメーカー学院とも連携し、授業指導を開始し、パターン検定の3級を2年に導入した。

インダストリアルパターンⅣ 大学2年生

③ コースはパターンコースなのでパターンメイキング検定を主に受験させていく。

2018年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：テキスタイルデザインコース

担当者：鈴木美和子

コメント：数値から見て

4点以上は「専門的知識・技術の修得」「専門教員の授業指導」「教養科目の会得」「教養科目の教員の指導」など教員に対する評価は高得点であった。専門性の高い専門大学の教育として高得点の評価であったことは良かったと思う。専門教育に力を入れてきた結果と思う。また大学としての教養科目や指導教員に対しても4点以上であったことは専門と教養がバランスよく修得できているように思う。またスキルとして必修条件なのが「コンピュータ」である。この事に関しても非常に力を注ぎ指導してきているので成果が出たように思う。その他施設、設備、学生生活など3点以上であった。学生を見ていると実習室（制作室）に居る事が多いのでこのような結果であることは日常感じる事ができる。実習室にPCやミシンが無いので、テキスタイルと言ってもプレゼンや仕上げに必要である。そのとき自習室が近いので良かったと思う。学生生活では多くの学生がアルバイトに専念していて最近の学生の動向を知るきっかけになる。ファッション系の資格に関しては学生の多様化に対して既存の資格に当てはまる事が無く、今後、適材適所で学生も納得する資格取得に取り組む必要を感じている。

全体的に見て

授業内容や大学施設・設備に関しては地下ということもあり「寒い」という意見が毎年であるがその他を総合して概ね良かったのではないかと評価している。今後に向けて資格取得に関して適切な指導と成果がでるよう取り組んでいきたい。

2018年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：ファッションプロダクトデザインコース

担当者： 肉丸 美香子

入学時に目標を持っていなかった人が5名程おり、その中で4名は、卒業時の目標の達成度に対する設問の意味すら理解できていないようで、特になし、と回答している。この事から、入学時に於いて学生として、大学にどのようなことを期待し、何を達成したいかを個々の学生に対し確認する事が、極めて重要であると考えられる。授業の評価に関して、専門科目・教養科目の教員の授業指導に対する評価が他のコースと比較して若干低かった。これは授業に対する意欲の欠如、学ぶ事の楽しさを見つけ出す事もできないまま、卒業を迎えた学生がいたと思われる。授業だけではなく、学生生活そのものすら楽しむことができずに、4年間を過ごしていたのではと想像できる。「友人関係・先輩後輩との関係は良好」との回答は、3.13Pと、全コースの中で最も低い数値であった。4年次後期の授業では、グループ制作を行っているが、この年度の学生は、グループ内での相互のコミュニケーションを殆どとる事ができず、制作そのものも円滑に進まず、作品の完成度も低く、提出期限も守れないグループが多かった。このような学生に対し、従来以上に目標の設定の重要性を理解させ、成し遂げる事の喜びや、満足感を味わう事ができるような授業を行う上で、新たな工夫の必要性を痛感した。

2018年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：ファッションビジネス・マネジメントコース

担当者：鈴木 明

平成30年度 卒業生32名 アンケート回答者については16名であった。アンケート調査結果からコース全体の平均値より下回る数値の主な下記4点の課題についての反省とし改善対策（案）

①「専門科目の知識・感性・技術の習得」については5段階評価の3.13の数値（中位・上）であることがわかる。コース全体の平均値よりやや低い数値であった。

②「専門科目教員の授業・指導」については5段階評価の2.94の数値（中位・下）であることがわかる。コース全体の平均値より低い数値であった。このような上記①・②の設問の5段階評価では中位の数値であるが、コース全体の平均値としてはやや低い数値であった。ビジネスコース全体の授業の取り組みについて、努力不足であったと反省している。今後の改善策としてビジネス専門科目2学年・3学年・4学年、各学年の担当科目の教員（非常勤講師）との反省会と改善対策として意見交換（意思疎通）としての機会を設け、何が原因なのかを話し合う機会をとりたい。例えば①・②の設問をテーマに担当科目の教員から意見を出してもらい教育活動の教授法など、今後の授業の取り組みへの改善対策（案）としたい。

③「就職活動の指導は行き届いていたか」については5段階評価の2.88と（中位・下）であることがわかる。コース全体平均値より低い。現在コースとしては3年後期授業終了後、4年生の授業の課題、進路についての学生の調査カード（用紙）を配布し、必要事項に記入・明記し4年生前期授業スタート時に調査カードをもとに学生一人ひとりの①4年生の卒論テーマについて②進路方向（就職活動）について面談しているが、数値が低い点については反省している。今後の改善対策（案）として「就職活動対策の個別面談」として前期・後期の時間割の調整をし、学生との面談の機会を増やし、学生へのよりよい就職活動、進路へと学生の満足へと改善してゆきたい。（※ビジネスコースの最終就職率は毎年80～90%以上である。）

④「総合的な学生生活の満足度」については5段階評価3.13の数値（中位・中）であった。コース全体の平均値よりやや低い。反省として学生生活4年間の満足度について、学生が不満である学生、満足度の低い学生がいることがわかった。もう少しゆき届いた、学生指導ができていなかった点については反省している。今後の改善案として上記③の改善対策（案）

の取り組み、学生との「個別面談」を2年、3年、4年と進級の段階ごとに意見交換の機会を実施するよう設けたい。

以上、全体として授業内容の改善（業界の直近の新しい、課題などの情報）、教授法を考え質のよい授業の理論と実践などを取り組みたい。また、資格取得については「資格対策」講座を設け実施し適切な指導と成果がでるよう取り組む。

2018年度卒業生アンケート結果へのコメント

コース名：ファッションビジネス・流通イノベーションコース

担当者：五月女由紀子

コースとしては、1期生になる卒業生であるが、アンケート結果は平均より下回る数値となり、満足度が低いことがわかる。

これは、本人たちからも口頭で聞いていたことであったが、新設でコースを作ったために、想定外の問題が全て今年の卒業生に降りかかってしまったため、大学、教員側の問題も大きかったと分析している。大きな問題は下記であり、改善策も考えた。

- ①コース立ち上げ時のコンセプトが色々な方向性に向かっていたことで疑問を持っていたところに、学年途中でコース主任の交代や、ゼミ担当教員との意思疎通の悪化などで、学生が混乱してしまい、落ち着いた環境で専門を学ぶことができなかった。その後、4年になってからはコース担当教員との信頼関係の構築を目指したが、やはり前半の2年間の混乱があり、総合点では低くなったと反省している。
- ②ビジネス系の新カリキュラムでは、当初2年でのコース科目がなかったため、何のために2年からコース選択をしたのかという不満が大きかった。翌年から、コースでの「プレゼミ」という新規科目を開講したが、この学年には間に合わず、下の学年では企業訪問などを行っていることを知り、複雑な思いを漏らす学生が多かった。この点に関しては、2年でのコース意識を確立することの大事さを大きく反省させられた。
- ③3年の専門科目を、仮履修段階ではマネジメントコースの専門科目の数科目を交換履修ができることになっていたが、4月の本履修になってそれが不可となったため、選択科目の登録が少なくなってしまった学生が数人いた。結果、4年での履修科目が多くせざるをえなかった学生からは、大学への不満を言われていた。今年度は選択必修科目が増えたこともあり、履修環境としては改善していると思う。
- ④就職活動に関して、コース責任者も初めての経験だったため、どのように進めるべきか理解しておらず、ほとんどの学生が就職部に頼らず、就職活動をしていた。その連携は今後の反省点だと考えており、今年度はすでに就職部から説明会を開いてもらう、3年の終わりには個人面談をして意向を確認するなどしている。
- ⑤コースの専門科目が自分のパソコンを使う授業が多かったため、課題や卒業論文のために大学内でパソコンを使用したいという学生が多かったが、昨年度はまだ図書館がWi-Fiがつかっていなかった。インターネットでの検索ができないため、大変不満が多かった。この図書館の問題に関しては、学生からの意見を取り入れて、今年度から接続できるように工事をした。

以上の点で、最初の卒業生の大学への満足度が低かったことは、コース主任としては反省する点が多く、今後のコース運営でさらに改善していきたいと考えている。